

伊奈彦定

その人展

開催趣意書



愛知県豊橋市立松山小学校の校長などを務め、教育、芸術、まちづくり等の地域活動の分野で要職を歴任され、この地域の文化の発展に多大な貢献をされた市勢功労者の伊奈彦定氏が、令和7年2月26日に亡くなりました。

そこでこれまでのお取り組みや残された作品をご紹介しますながら、その功績を振り返ろうと以下の団体が中心となり、関係各所のご支援やご協力をいただきながら「伊奈彦定その人展」を開催することになりました。

今回の展示や作品から伊奈彦定氏のひととなりや、愛するまち豊橋への想いをお感じいただければ幸いです。

伊奈彦定

その人展

とよはし市電を愛する会



とよはし市電を愛する会は、路面電車を活かしたまちづくりを目指す市民団体として、1990年(平成2年)11月に結成され、令和7年で36年を迎えます。1925年(大正14年)に開通した豊橋鉄道市内線を、市民は親しみを込めて「市電」と呼んでいます。人に優しく環境にやさしい路面電車は、21世紀の都市交通機関LRT(ライトレールトランジット)という新しい姿として世界でも日本でも見直され始めています。当会では活動の柱を街の景観としての「見る市電」、乗車促進を目指す「乗る市電」、まちづくり研究としての「考える市電」と定め、わがまち豊橋の発展を目指し、4月10日「市電の日」、6月10日「路面電車の日」には、市民ぐるみの楽しいイベントの企画実践をしています。永年の念願であった全面低床連接電車「ほつトラム」の導入にあたっては、市民募金運動を展開し、市民・行政・事業者の協力により夢をかたちにすることができました。既存の市電路線を基として、次世代のために未来へ向けて、東へ西へ、南へ北へ線路を延ばす「ゆめ路線」も計画しています。個の足「車」とみんなの足「市電」が共生する「すばらしいまち豊橋」のまちづくりに今後とも取り組んでまいります。

とよはし市電を愛する会 印 より引用

■ 設立

平成2年11月22日

■ 現役員

顧問	寺元 和子	神野紀郎	監事	上村 健介	松井 章悟				
参与	山守 實	小田 公平	理事	青木 健太郎	秋元 勲	内山 知之	岡田 宏子	加藤基吉	
	黒谷 尚弘			佐藤 脩次	杉浦 顕倫	広田 智	河合 敏夫	小林 孝壽	
会長	高須 博久			永田 康郎	中西 雅孝	坂野 慎	山口 孝	小林 大吾	
副会長	服部 公子	片岸 初江		三浦 裕司	山本 まき	黒谷 典央	池田 桂子		
	富田 佳央	伊藤 晴康	事務局長	鈴木 美江					
			事務局	村井 伸行					

主催 / 伊奈彦定展実行委員会 (とよはし市電を愛する会 豊橋交響楽団 伊奈彦定その人展部会) 共催 / 豊橋市 豊橋市教育委員会 豊橋鉄道株

協賛 / 南川西種苗店 サラグループ 豊橋信用金庫 豊橋調理製菓専門学校 豊橋三菱ふそう自動車販売㈱ ㈱日の丸 学校法人 藤ノ花学園 ㈱豊川堂 ヤマサちくわ㈱ 有楽製菓㈱ 中西会計事務所

伊奈彦定

その人展

とよはし市電を愛する会 36年の歩み

西暦	和暦	会長	出来事
1990	平成2年	久曾神 昇	市電を愛する会設立総会 伊奈彦定氏（副会長）
1991	平成3年	久曾神 昇	ギャラリー電車運行（第1回市電の日）
1992	平成4年	久曾神 昇	コーラス電車運行（第2回市電の日）
		久曾神 昇	絵画カレンダー「市電のある風景」発刊（活動基金づくりとPR）
1993	平成5年	久曾神 昇	国際交流電車運行（第3回市電の日）
		久曾神 昇	93市電愛好団体サミット（札幌市）
		久曾神 昇	市電のある風景 絵葉書発売
1994	平成6年	久曾神 昇	モ3702号エバークグリーン号運行（第4回市電の日）
1995	平成7年	久曾神 昇	子どもの「詩電」運行（第5回市電の日）
1996	平成8年	久曾神 昇	国際交流お花見電車運行（第6回市電の日）
1997	平成9年	久曾神 昇	レトロ電車明治大正仮装大会号 運行
		佐々木慎一	川柳電車運行（第7回市電の日）
1998	平成10年	佐々木慎一	街づくり交流電車 運行（第8回市電の日）
		佐々木慎一	全国サミット豊橋大会レジャーシートによる資金づくり開始
		佐々木慎一	全国サミット実行委員会設立（伊奈実行委員長）
1999	平成11年	佐々木慎一	第4回全国路面電車サミット 99in とよはし
		佐々木慎一	ふさとサミット号（第9回市電の日）
2000	平成12年	伊藤 昭彦	朝合川スケッチ電車 運行（第10回市電の日）
		伊藤 昭彦	中部運輸局長表彰（鉄道思想普及活動）
2001	平成13年	伊藤 昭彦	ゆめ路線バス&ライド号 運行（第11回市電の日）
2002	平成14年	寺本 和子	孫ころ（真心）電車 運行（第12回市電の日）
		寺本 和子	第1回中部地区路面電車サミット豊橋（愛する会提言）
2003	平成15年	寺本 和子	ふさと豊橋絵手紙電車 運行（第13回市電の日）
2004	平成16年	寺本 和子	寄席電車 運行（第14回市電の日）
		寺本 和子	中部の未来創造大賞優秀賞 路面電車を活かしたまちづくり
2005	平成17年	寺本 和子	まちなか元気号 運行（第15回市電の日）
		寺本 和子	路電の日 市電美術館開催（レトロ電車）伊奈副会長 ヨーロッパの路面電車スケッチ展
		寺本 和子	豊橋オリジナルLRT導入のための市民募金検討開始
2006	平成18年	鈴木 國雄	歴史探訪市民電車号 運行（第16回市電の日）
		鈴木 國雄	路面電車新時代LRT写真展
		鈴木 國雄	第5回中部地区路面電車サミットとよはし100祭大会
		鈴木 國雄	豊橋オリジナルLRT市民協力基金づくり始まる レジャーシート販売
		鈴木 國雄	市電文化散歩号 運行
2007	平成19年	鈴木 國雄	さよならレトロ電車 運行（第17回市電の日）
		鈴木 國雄	ゆめ路線草毛湿原号 運行（路電の日）
		鈴木 國雄	LRT市民基金推進号 運行
		鈴木 國雄	LRT導入基金寄付 贈呈式
2008	平成20年	鈴木 國雄	紺綬褒章（ほつトラム導入基金） 内閣府
		鈴木 國雄	早咲きの花ロケ地号 運行（第18回市電の日）
2009	平成21年	鈴木 國雄	孫とほつトラム号 運行（第19回市電の日）
		鈴木 國雄	市電まつり開催（路電の日）
2010	平成22年	伊奈 彦定	伊奈彦定氏 愛する会 会長就任
		伊奈 彦定	穂の国ハーフマラソン応援号 運行
		伊奈 彦定	COP10絵手紙電車 運行（第20回市電の日）
		伊奈 彦定	小児運賃無料の日（路電の日）
		伊奈 彦定	第9回中部地区路面電車サミット in 豊橋
		伊奈 彦定	創立20周年記念事業「市電の走る街豊橋 過去から未来へ 3期構想」提言
2011	平成23年	伊奈 彦定	ええじゃないか豊橋・市電の日 市電沿線ミステリーハイキング 小児運賃全線無料に（第21回市電の日）
		伊奈 彦定	ライフライン号 運行
		伊奈 彦定	東愛知新聞社特別社会賞 受賞「路面電車を活かしたまちづくり」
2012	平成24年	伊奈 彦定	ええじゃないか豊橋・市電の日 市電クイズラリー（第22回市電の日）
		伊奈 彦定	伊奈会長「市電のある風景 第3集 豊橋・平和から未来へ」発刊
2013	平成25年	伊奈 彦定	ええじゃないか豊橋・市電の日 ほの国ハイキング「フムフム」歴史学びコーナーと「ワクワク」豊橋競輪バンクウォーク（第23回市電の日）
2014	平成26年	伊奈 彦定	ええじゃないか豊橋・市電の日 ほの国ハイキング 市電唱歌コース（第24回市電の日）
		伊奈 彦定	LRT都市サミット豊橋2013
2015	平成27年	伊奈 彦定	豊橋LRT ゆめ路線構想 発表
		伊奈 彦定	ええじゃないか豊橋・市電の日 ほの国ハイキング 市電開通90周年市電今昔散歩コース（第25回市電の日）
		伊奈 彦定	愛する会 愛知県エコモビ推進団体表彰
		伊奈 彦定	路電の日「豊橋元気号」開通90周年
		伊奈 彦定	手づくり郷土賞（国土交通省）豊橋鉄道とともに受賞
		伊奈 彦定	第14回中部地区路面電車サミット2015in 豊橋
2016	平成28年	伊奈 彦定	ええじゃないか豊橋・市電の日 ほの国ハイキング 市電沿線歴史探訪コース（第26回市電の日）
2017	平成29年	神野 紀郎	ええじゃないか豊橋・市電の日 市電沿線アート巡りハイキングとほの国グルメおでんしゃ村（第27回市電の日）
2018	平成30年	神野 紀郎	ええじゃないか豊橋・市電の日 陸王豊橋ロケ地巡りウォーキング（第28回市電の日）
2019	平成31年	神野 紀郎	ええじゃないか豊橋・市電の日 平成最後の市電の日ウォーキング（第29回市電の日）
	令和元年	神野 紀郎	市電の日 コロナ禍により中止
2020	令和2年	大辻 太一郎	創立30周年記念電車「市電にエール30年 未来につなぐみんなの市電」
2021	令和3年	大辻 太一郎	創立30周年記念講演会（第19回中部地区路面電車サミット in 豊橋2021）
2022	令和4年	高須 博久	創立30周年記念展 市電の日JRさわやかウォーキング（市電の日）
		高須 博久	市電文化リニューアル
2023	令和5年	高須 博久	JRさわやかウォーキング 今も変わらない風景 市電のある風景を歩こう！（市電の日）
2024	令和6年	高須 博久	JRさわやかウォーキング 多米配水場で春を感じよう！（市電の日）
2025	令和7年	高須 博久	JRさわやかウォーキング 市電が走る街豊橋！（市電の日）



1991 ギャラリー電車運行



2001 市電の日 ゆめ路線バス&ライド号



2007 LRT 基金寄付金贈呈式



2008 ほつトラム発車式



中部地区路面電車サミット2015



2022 創立30周年記念展

伊奈彦定

その人展



伊奈彦定氏 プロフィール

西暦	和暦	記述
1935	昭和10年	東京都豊島区生まれ
1943	昭和18年	戦争のため豊橋に疎開
1957	昭和32年	愛知学芸大学（愛知教育大学）美術教室デザイン専攻卒業 豊橋市にて教職に就く
1958	昭和33年	第1回「子ども造形パラダイス」の企画運営に参画
1965	昭和40年	第1回豊橋リードフィルハーモニー交響楽団（現豊橋交響楽団）チケット・ポスターデザイン
1973	昭和48年	豊橋市民展賞（豊橋市） 豊橋リードフィルハーモニー交響楽団（現豊橋交響楽団）理事に就任
1987	昭和62年	画集第1集「豊橋いまむかし 市電のある風景」（豊川堂）
1989	昭和64年	日本アマチュアオーケストラ連盟（J A O）本部理事に就任（～1994 まで）
1990	平成2年	とよはし市電を愛する会発足 副会長に就任
1994	平成6年	豊橋文化振興賞（豊橋市）
1996	平成8年	画集第2集「豊橋今昔 市電のある風景 / 設楽残像なつかしの田口線」（豊川堂）
1999	平成11年	第4回全国路面電車サミット99in豊橋大会 実行委員長就任
2000	平成12年	豊橋文化賞（豊橋文化協会）
2002	平成14年	中学校国語教科書執筆「古くて新しい路面電車」（教育出版社）
2003	平成15年	愛知県教育表彰（愛知県教育委員会） 豊橋交響楽団 副理事長に就任
2005	平成17年	秋の叙勲「瑞宝双光章」（内閣府）
2008	平成20年	豊橋交響楽団 理事長に就任
2010	平成22年	とよはし市電を愛する会 会長に就任（以後2015年まで6年間務める）
2011	平成23年	画集第3集「豊橋・平成から未来へ・市電のある風景」（豊川堂）
2014	平成26年	豊橋商工会議所産業功労賞（都市デザイン文化）
2015	平成27年	豊橋交響楽団創立50周年記念ポスター展（豊橋市美術館）初回から118点 豊橋交響楽団 顧問に就任
2016	平成28年	ふるさと豊橋いちばん認定表彰（愛市憲章推進協議会） とよはし市電を愛する会 顧問に就任
2017	平成29年	伊奈彦定「鉄道のある風景・原画展」（名豊ギャラリー移設オープン記念）
2018	平成30年	原画展「廃線から50年 なつかしの田口線」（豊橋ハートセンターギャラリー）



1987 市電のある風景 第1版



2002 中学国語教材「古くて新しい路面電車」



2024 第67回子ども造形パラダイス

主催／伊奈彦定展実行委員会（とよはし市電を愛する会 豊橋交響楽団 伊奈彦定その人展部会） 共催／豊橋市 豊橋市教育委員会 豊橋鉄道㈱

協賛／南川西種苗店 サラグルース 豊橋信用金庫 豊橋調理製菓専門学校 豊橋三菱ふそう自動車販売㈱ ㈱日の丸 学校法人 藤ノ花学園 ㈱豊川堂 ヤマサちくわ㈱ 有楽製菓㈱ 中西会計事務所

とよはし市電を愛する会活動記録展



5 とよはし市電を愛する会設立

■設立の経緯

設立は平成2年11月22日。当時豊橋ロータリークラブの社会奉仕委員会で委員長であった大辻太一郎氏が、1987年に発刊された伊奈彦定氏の画集「豊橋いまむかし～市電のある風景」から着想を得たもので「環境問題をCO2の少ない路面電車を切り口に考えよう!」と、市電に関心のあるメンバーに声をかけたのが始まりでした。せっかく組織するならロータリークラブだけでなく一般市民とともに市民団体としてはどうか?ということになりました。

「市電の好きな人」 「市電を観光資源と考える人」
「市電で街づくりをしようとする人」「もちろん環境という観点からとらえる人」
「市電を愛する人ならだれでも良い」

このような皆さんでとよはし市電を愛する会は組織されていきました。市電の日(4月10日)路電の日(6月10日)のイベント実施
カレンダー「市電のある風景の発行」機関紙「市電文化」の発行
路面電車を走らせる街と支援団体との交流 等の上記の事業を重ねてきました。その中で力を注いだ事業はLRVの導入のための資金づくりで、その成果は平成20年の基金創設となり、長年の夢であった全面低床車両ほつらム導入に集結しました。とよはし市電を愛する会は、これからも市民の皆さんにたくさん市電に乗っていただくために、事業者である豊橋鉄道と行政のみならずと手をとりながら、市電のように決めてあせらず楽しい企画とともに、コツコツ進んでまいります。

(市電文化 第42号 神野紀郎氏寄稿文より引用)

■設立

平成2年11月22日

■設立当時の役員

会長 久保伸男
副会長 伊奈彦定 鈴木国雄

理事 足立守男 石原尚区 上村健介 大塚佳和 神野紀郎
川原紀寛 加谷秀弘 佐藤敏光 鈴木邦夫 中神弘郎
長塚孝美 堀田龍正 松井章樹 森 達 八木太平
山本典嗣 山本 翔二 山守 實 大辻太一郎

監事 林 一彦 松井英治郎

■ありがとうの手紙

当時私は豊橋商工会議所で観光部会長を務めていました。豊橋の街づくりや観光の視点で市電に着目し、駅前大通りのセンターポール化にも関わっていた時に、ロータリークラブで環境保全に取り組んでいた大辻太一郎氏から、「環境問題を路面電車を切り口に考えられないか?」と相談を受けました。これがとよはし市電を愛する会の始まりだったと記憶しています。

ロータリークラブの構想からスタートした取り組みは、関係者との議論を重ねる過程で徐々に市民団体を目指すようになっていきました。そこに市民の一人として加わっていただいたのが、昭和62年11月に画集「市電のある風景」を出版された伊奈彦定氏です。伊奈彦定氏は、元教員で画家。様々な地域活動に関わる文化人でした。

会の機関紙を「市電文化」と命名したのも伊奈氏。このネーミングからも文化的なアプローチが感じられ、「環境」や「街づくり」といった堅苦しくりがちなテーマや活動に、新たな風を吹き込んでいただきました。市電カレンダーや絵はがき制作によるLRV基金づくりには、画家 伊奈彦定としてたくさんの絵を描いていただきました。ゆめ路線構想では、街づくりの分野で地域に夢を与えていただきました。

今でも市電と豊橋の街について、酒を飲みながら熱く語り合った日々が懐かしく思い出されます。豊橋の街ととよはし市電を愛する会に「文化」「芸術」「街づくり」等、多方面にわたりご尽力いただいた伊奈彦定氏に、心から感謝しています。



とよはし市電を愛する会
理事 神野紀郎 氏



6 市電カレンダーの発売

■市電カレンダー「市電のある風景」

1992年（平成4年）からとよはし市電を愛する会として発行しています。その始まりは伊奈彦定氏が1987年（昭和62年）発行した「豊橋いま・むかし 市電のある風景」からでした。現とよはし市電を愛する会顧問の黒谷氏が、この絵を活かしたカレンダーづくりを提案し、カレンダー「市電のある風景」が始まります。このカレンダーも2025年（令和7年）版で34冊目となります。2カ月めくりのため1冊で7点の作品。大変多くの作品を伊奈彦定氏に描いていただきました。描かれた作品は郷土愛に溢れ、多くの市民に愛され続けてきました。開業間もない大正の時代から、昭和～平成～令和を走り続けた市電が、時代とともに変化し続けた豊橋のまちなみや人々を背景に、水彩絵の具やパステルで生き生きと描かれています。懐かしさが感じられるものから未来を描いたものまで、作者の愛する街豊橋と路面電車への愛情が感じられるものとなっています。伊奈彦定氏の記述によると、僅か5.4kmの沿線の風景にいかに変化を持たせ表現するかという事にご苦労されたようです。過去～現在～未来、春夏秋冬、朝昼晩、形式の様々な車両、町並みと構図等に気を配りながら描かれたと聞いています。これもすべては愛する市電のため。皆さんが部屋に飾って親しんでいただき、豊橋の路面電車に想いを寄せて下さっているとの想いがあったからこそ。市電のPRが目的でしたが、その背景にはとよはし市電を愛する会の活動や公共交通促進のための基金作りという側面もありました。市民の皆さんに作品をご覧いただき、会の活動も役立つことが、長きに渡り描き続けられた本当の理由のようです。蓄えられた資金は、LRT事業推進時には豊橋市公共交通活性化基金に寄付され、ほつトラム導入に活用されました。

市電のある風景 資料編 カレンダー「市電のある風景より引用」

■ありがとうの手紙

伊奈彦定氏（以後先生と記述）は豊橋東高校の先輩後輩の間柄ですが、とよはし市電を愛する会（以後愛する会と記述）よりも歴史は長いのですが、その関わりの濃さは愛する会には遠く及ぶことはありません。設立当初愛する会の台所は厳しい状況にあり、資金確保が課題となっていました。そこで私は、愛する会の活動と市電のPRのためカレンダー「市電のある風景」の制作を提案し、ここから先生との二人三脚での市電カレンダーに仕立てていきます。画家としての先生は、メ切を守る几帳面な方で、ご用意いただく作品はどれも非の打ちどころがないものばかりでした。1992年の初版からこれまで34版を手掛けてきましたが、多くのお部屋に飾っていただくことが私と先生の何よりの喜びであり、長く続けられた理由でもあります。活動資金と市電PRのためのカレンダーづくりは、後にLRT基金創設によるほつトラム導入を後押しし、愛する会の市民活動はまちづくりのお手伝いのできるまでの広がりを見せてきました。会の活動をそこまで高めた要素に、伊奈先生の尊厳が大きかったと考えています。この市電が大きく変化を遂げるタイミングで、画家と愛する会のそれぞれの立場で活動された先生とご一緒し、市電やこのまちの活性化に共に取り組めたことは、一生の思い出であり、素敵な時間を共有できたことに感謝いたします。



とよはし市電を愛する会
理事 黒谷尚弘氏



7 各種イベントの開催

■ イベント企画のアイデア

とよはし市電を愛する会は、1990年設立以来様々なイベントを開催してきました。市電の日（4月10日）、路電の日（6月10日）のイベントがその代表的なもので、1991年のギャラリー電車の運行を皮切りに、コーラス電車、国際交流電車、絵手紙電車、川柳電車などユニークなアイデアのイベント電車や行事で路面電車の魅力を紹介し続けています。当初は市電に関心を持っていたく機会の創出と、会員の親睦が主な目的でしたが、まちづくりの視点から、豊橋市や豊橋鉄道との連携を深め、近年ではJRさわやかウォーキングを誘致するなど、会の目的でもある「見る市電」「乗る市電」「考える市電」の浸透を、イベントの開催を通じて実践しています。

< 代表的な企画 >

1991年 平成3年	ギャラリー電車 運行（第1回市電の日）
1992年 平成4年	コーラス電車 運行（第2回市電の日）
1995年 平成7年	子どもの「詩電」運行（第5回市電の日）
1997年 平成9年	川柳電車 運行（第7回市電の日）
	レトロ電車明治大正仮装大会号 運行
2000年 平成12年	朝食川スケッチ電車 運行（第10回市電の日）
2001年 平成13年	ゆめ路線バス&ライト号 運行（第11回市電の日）
2002年 平成14年	孫ころ（真心）電車 運行（第12回市電の日）
2003年 平成15年	ふるさと豊橋絵手紙電車 運行（第13回市電の日）
2004年 平成16年	寄席電車 運行（第14回市電の日）
2005年 平成17年	路電の日 市電美術館（レトロ電車）
2006年 平成18年	歴史探訪市民電車号 運行（第16回市電の日）
	市電文化散歩号 運行
2007年 平成19年	きよならレトロ電車 運行（第17回市電の日）
	ゆめ路線草毛温泉号 運行（路電の日）
2009年 平成21年	孫とほつら号 運行（第19回市電の日）
2010年 平成22年	COP10 絵手紙電車（第20回市電の日）
2011年 平成23年	市電沿線 ミステリーハイキング（第21回市電の日）
2012年 平成24年	市電クイズラリー（第22回市電の日）
2015年 平成27年	ほの国ハイキング 市電開通90周年市電今昔散歩コース（第25回市電の日）
2017年 平成29年	市電沿線アート巡りハイキングとほの国グルメおでんしゃ村（第27回市電の日）
2023年 令和5年	JRさわやかウォーキング 今も変わらない風情 市電のある風景を歩こう！（市電の日）

■ ありがとうの手紙

伊奈先生ありがとうございます。

私は市電を愛する会事務局長として伊奈先生の下でその魅力に引き込まれた一人です。

先生はバランス感覚とユーモアと人へのやさしさをお持ちの方で、お人柄から幅広いジャンルの人脈をお持ちでした。さらにその頭はいつも柔軟で、会の事業計画などは先生のアイデアによるものが多かったように記憶しております。

先生はお酒もお好きで、イベントなどが終わるといつも駅近近くの決まった呑み屋さんで「反省会」と称する呑みニケーションをします。飲むと新しい発想が湧いてきてどんどん饒舌に語られました。「市電の日」や「おでんしゃ」もここできっかけが生まれたのではないかと思います。また少しさかのぼりますが、「歴史探訪市民電車」などでは、その日だけ大正時代の衣装を着てチンチン電車に乗って街を歩くという奇想天外なイベント。一般市民や市長も巻き込んでやってしまう実行力で、会員の方々も楽しんでやっていてパワーを感じます。

先生は、水彩や鉛筆、クレパスなどで主に風景画を描かれますが、その絵は単なる写真ではなく、現実の鋭い観察を基に先生の豊かな想像力で頭の中にあるものを組み立て直し描かれているように思います。伊奈先生は豊橋をこよなく愛しておられ、電車マニアから街づくりまでも考えておられました。現実を観察しながらも自由な発想でその時々トレンドを取り込み、「こうなったらいいな」を描いておられました。表現しておけば、誰かが受け継ぎ実現してくれると、期待しておられたのだと思います。先生の描く未来の街は、暖かく優しい人々の交流と生活が根底にあり、大都会の猥雑で喧騒のある発展ではなく、賑わいながらもどこか豊橋らしいのんびりした心豊かな街を考えていらっしゃったように思われます。



とよはし市電を愛する会
理事 加藤吉氏



8 LRT事業 ほつトラム実現

■LRV 導入

私たちが1999年の全国路面電車サミット豊橋大会で提唱してから10年。その夢が形になりました。2008年12月19日。私たちの街豊橋に超低床電車LRV「ほつトラム」が営業運転を始めました。

この計画は、2005年「豊橋路面電車活性化事業計画」が国から認可を得て、導入が決定しました。総事業費5億7千万円。国・愛知県・豊橋市の自治体と、とよはし市電を愛する会等の市民団体の支援を受け豊橋鉄道が実現を目指してきました。事業は2017年から5年計画で進められ、主要停留場のバリアフリー化と安全島の新設、P&R（パーク&ライド）駐車場の整備後、ICカードと超低床車両LRV「ほつトラム」を導入されていきました。中でも総事業費の1/2を占める新型車両LRVは、2億5千万円と高額で同社が負担する計画となっていました。

そこでとよはし市電を愛する会は、「市民のための公共交通機関である。」との視点から地域に支援の呼びかけを始めたところ、豊橋商工会議所を中心に「新しい公共交通とまちづくりの会」が設立され、LRV導入のための活動が動き始めます。

これに豊橋市も豊橋市公共交通活性化基金の条例制定で応え、市民・行政・事業者の連携による路面電車を活かした新しいまちづくりが具体化していきました。そして2008年の12月19日真新しい白く近未来的でスマートな車両は豊橋の街を走り始めました。車両側面の帯（グラデーション）は、三河の「海・川・緑」をモチーフにした伊奈彦定氏デザインのものの。

なおこの取り組みはのちに国土交通省から市電を活かしたまちづくりとして「手づくり郷土賞」を受賞することとなった。1950年に国鉄と地元が協力し民衆駅として誕生した豊橋の地に於いて、事業者と地元の連携により実現した取り組みとして今後も語り続けられることでしょう。

■路面電車を活かした街づくり

2004年に豊橋鉄道に赴任しましたが、当時の路線バスや市内線は、大変厳しい状況にありました。その厳しい経営状況の中で伊奈彦定氏とお会いすることになりました。穏やかで温厚なお人柄の中にしっかりとしたお考えをお持ちで、路面電車の愛好家だけでないことはすぐに理解しました。

何度かお会いし豊橋への想いと路面電車を活かした街づくりの必要性を訴える姿に、事業者として少なからず影響を受け、徐々に公共交通の経営は街づくりと地域を意識するようになっていきました。この変化によりLRT導入や路線バス維持の議論も徐所に噛み合い始めたことと記憶しています。その後LRT支援策の充実と市制100周年に向けた取り組みの中で、地域の期待に応える形で我々は計画を前に進めることになります。この決断は伊奈彦定氏との出会い以降、地域との関わり方が大きく変化し、地域とともに歩む企業姿勢が大きく打ち出されたものであり、その協働の象徴がLRVほつトラムだと考えています。

現在運転免許証を返納し病院に通院する身となった今、身近な公共交通の必要性をこれまで以上に感じています。人に優しい低床車両LRTによる街づくりを早くから提唱され、その実現に向けご尽力いただいた伊奈彦定氏に、改めて敬意を表するとともに、この先豊橋の公共交通がよりよい方向に進んでいくことを願っています。



元豊橋鉄道社長
水野忠之 氏

とよはし市電を愛する会活動記録展



9 市電を活かしたまちづくり

■市民の声を集約した「近未来の豊橋 LRT ゆめ路線」

人と環境にやさしい LRT (新システム路面電車) は 21 世紀の都市公共交通として注目され、日本各地で敷設が検討されています。既存の路面電車を持つ豊橋市は全国的にみても貴重な存在であり、すごい社会資本を有する都市といえます。モータリゼーションはマイカーの普及を促し、便利な個人生活に貢献してきました。しかし多発する交通事故、渋滞の慢性化、駐車場不足、中心市街地の空洞化等、公共生活へのリスクも大きいことも事実です。将来を見据えた街づくりでは、動脈としての LRT と、マイカーとの理想的な共存こそ切実になります。パーク＆ライドやトランジットモールなどです。そこで今わたしたちは 50 年後位を視野に一步を踏み出す時だと思えます。

まず現実的な赤岩口からの路線延伸計画をとよはし市電を愛する会として提案します。行政・事業者・市民がひとつになって豊橋の公共交通アクセスの将来を構想することが大切です。我々に寄せられた市民の声をまとめると上記図のようになります。やがて架線のない軽量車体で、コンピュータ制御と GPS による便利で安心・安全な無人運転の LRT 時代がやってきます。その時をめざして開発研究が着々と進められていくことでしょう。

出典「市電文化 第50号 より引用」

■ありがとうございます手紙

私と伊奈先生との出会いは昭和 61 年の秋でした。私は本屋のオヤジとして岩西小学校を訪ね、市電の絵を拝見しました。あまりの素晴らしさに驚き、その場で出版を決めました。先生は、お父様が国鉄マンだったので小さい頃から鉄道に興味を持っていたそうです。車両の知識と市電の大切さをお聞きました。昭和 62 年 5 月に伊奈彦定画集「豊橋いまむかし市電のある風景」を発刊いたしました。この画集を読んでくださった方々が、人と環境にやさしい市電を豊橋の公共交通の主軸にしようと平成 2 年に「とよはし市電を愛する会」を創立してくださいました。以後伊奈先生は市電イベントの企画にたくさんのアイデアを提案し、全国市電サミットの開催に尽力されました。平成 22 年からは第 6 代会長として私たちを引っ張ってくださいました。平成 23 年になり、私は伊奈先生に、100 年後の豊橋の市電を描いてくださいとお願いしました。すると豊橋市内東西南北に LRT の環状線を走らせよう！

奥三河にも登れる路面電車はできないか？

磁気浮上式の車両を開発したい。

世界ではどんな路面電車が走っているのか等々打ち合わせているうちに夢は次から次へと広がっていきました。伊奈先生は「古くて新しい路面電車」は環境にやさしい乗り物として、未来の都市交通の動脈として各都市に合った姿で発展していくであろうと語っておられます。私は生まれたときから市電を見て育ってきました。伊奈先生と公にわたって仕事をしたことを誇りに思っています。ありがとうございます。



とよはし市電を愛する会
会長 高須博久 氏

伊奈彦定 その人展

とよはし市電を愛する会活動記録展



10 地元企業との連携

■地元企業との連携（有楽製菓）

1994年に豊橋で生まれたブラックサンダーは、有楽製菓㈱の主力商品として多くのお客様に親しまれる豊橋銘菓です。同社は東京に本社を構える製菓会社で、1994年豊橋工場で生まれたこの商品は、2008年の内村航平氏の発言以降、販売数が飛躍的に伸び、今や国民的なお菓子となっています。これまで同社は宣伝に多額の予算を割くことはなかったようです。

「豊橋生まれのブラックサンダーを 地元の豊橋の皆さんにもっと知ってもらおう！」

「市民に愛される市電のように愛されるお菓子を目指そう！」

そこで検討を始めたのが市内を走る路面電車のラッピング広告。当時 とよはし市電を愛する会 顧問の光陽製菓㈱の鈴木国雄氏に相談したところ、まずは愛する会への入会を勧められ、ここから伊奈彦定氏とのご縁が始まったようです。

2013年5月によりやく念願のブラックサンダー号（3200形）が実現し、現在は2代目の車両（800形）です。もともと豊橋が発祥の地ではない同社が、「豊橋にはコレがある!」「豊橋銘菓」と謳うことに遠慮がありまして（河合会長）。しかし地域の方々は温かく受け入れ、今は豊橋のご当地菓子としてご案内されています。伊奈先生とのご縁は会の活動を通じて更に深まり、絵画も初代ブラックサンダー号を3点、リニューアル後の2代目も1点提供いただいたようです。その後路面電車やお祭りなど豊橋の魅力をお伝えする特別パッケージ「豊橋ブラックサンダーミニバー」の企画にも、二つ返事で画像提供を快諾いただいたようです。

豊橋や路面電車のためになることには、常に寛容な姿勢で相談に応じられた伊奈先生の姿がここでも垣間見ることができました。

2025/6/16 有楽製菓工場 河合伴治取締役会長とのインタビューより

■ありがとうの手紙

伊奈先生とは市電を愛する会でお会いして親しくなりました。パッケージデザインも二つ返事で受けてくださったのを覚えています。個展のご案内をいただき見に行くと、コーヒーをご馳走して下さったり、わざわざお礼状をくださったり、絵だけでなく、人間としてもとても素敵な方でした。先生に描いていただいた絵は当社の宝として大切にしていきたいと思っています。



有楽製菓㈱
取締役会長 河合伴治 氏